

# 江戸時代日本に来た露西亜人 — 播磨榎吉旧蔵書から —

1992年8月25日(火)～9月25日(金)

播磨榎吉(はりまならきち)(1883-1952)は時事新報社特派員として、第一次大戦からロシア革命の時代にかけてペテルブルグに滞在。その間にロシアの歴史・地理・社会思想関係の資料を収集しました。当館では彼の没後その蔵書からロシア語文献 1,200 冊を購入しています。(『国立国会図書館所蔵播磨榎吉旧蔵書目録』1960 参照)。今回の展示では播磨旧蔵書の中でも特に日露交渉史に関する図書を選んでみました。

( )内は当館請求記号。なお、ロシア語の表記は現在使われている表記に直してあります。

## 展示資料リスト

### 1) Крузенштерн, Иван Федорович (1770-1846)

ЛутеШествие вокруг света в 1803, 4, 5 и 1806 годах. Спб., 1809-1812

(クルーゼンシュテルン『1803, 1804, 1805, 1806年の世界一周の旅』 Санкт Петербург 1809-1812) (910.4-K94p)

クルーゼンシュテルンはこの世界一周航海の際、日本にも立ち寄っている。

### 2) Головнин, Василий Михайлович (1776-1831)

Записки флота капитана Головнина о приключеннях его в плену у японцев в 1811, 1812 и 1813 гг. С приобщением замечаний его о японском государстве и народе. Спб., 1816

(『艦長ゴロヴニンの1811, 1812, 1813年の日本人のもとにおける監禁についての手記』 Санкт Петербург 1816) (915.2-G628z)

千島列島およびオホーツク海沿岸の測量にきたゴロヴニンはクナシリ島測量の際に松前藩クナ

シリ番所の役人により捕らえられ、以後2年半日本に留め置かれる。

\*展示のゴロヴニンの肖像は本書の1851年版に掲載のもの。

(参考展示)井上満 訳 『日本幽囚記』 岩波書店 1968 (初刷は1943-1946年) 3冊 (岩波文庫)

### 3) Рикорд, Петр Иванович (1776-1855)

Записки флота капитана Рикорда о плавании. его к японским берегам в 1812 и 1813 гг. и о сношениях с японцами. Спб., 1816, 137стр.(『艦長リコルドの1812.1813年の日本沿岸航海及び日本人との折衝記』 Санкт-Петербург 1816)  
(915.2-R572z)

ゴロヴニンの救出をめざすリコルドは日本の漂流民とゴロヴニンとの交換を考える。この時、リコルドが接触したのは高田屋嘉兵衛である。

(参考展示)井上満 訳 『日本幽囚記』(前掲)所収「艦長リコルドの手記」の部分

### 4) История Японии, или Япония в настоящем виде. Москва, 1835

(『日本の歴史、および日本の現勢』 Москва 1835) (952-187)

### 5) Гончаров, Иван Александрович (1812-1891)

Русские в Японии в начале 1853 и в конце 1854 гг. Спб., 1855, 237стр.(『1853年初頭と1854年末に日本滞在中のロシア人』 Санкт-Петербург 1855)  
(915.2-G635f)

レザノフ、ラックスマンに続く第3回遣日使節はプッチャーチンである。1953年長崎に来航するが、この船に役人として同乗していたのが、後に『オブローモフ』の作者としてロシア文壇に登場する本書の著者ゴンチャロフである。

\*原文標題紙に誤記がある。本文中では“Русские в Японии в конце 1853 и в начале 1854 гг.”(「1853年末と1854年初頭に日本滞在中のロシア人」とある)

(参考展示)井上満 訳 『日本渡航記』 岩波書店 1968(初刷は1941年)(岩波文庫)

### 6) Махов, Василий Емельянович

Фрегат Диана; путевые записки бывшего в 1854 и 1855 гг. в Японии Спб., 1867, 64 стр.(『フリゲート艦ディアナ号—1854, 1855年日本滞在記』 Санкт-Петербург 1867)  
(915.2-M235f)

日露修好条約は1855年に締結されたが、この時、下田地震による津波のためプッチャーチンの搭乗艦・ディアナ号が沈没した。以後、日本側も協力し、戸田(へだ)村で「へだ号」が建造され、プッチャーチンはこの「へだ号」で帰国する。

